

景観グループ

ビオトープの今

高城 光一

ビオトープは春を迎える準備中で至って静かである。雑草も生えずザリガニも冬眠中である。ビオ担当の今の仕事は溝の泥上げや杭打ちなど土木作業がメインとなるが結構きつい。

今回はネタ不足につき新鮮味はないがタガイ(田貝)にまつわる話題をレポートします。タガイはドブガイの一種で大きい方がヌマガイ小さい方をタガイと言うらしい。そのタガイを近大の指導の下で育てているのだが何故タガイかということニッポンバラタナゴは適度な大きさの2枚貝に産卵するからである。ホタルとカワニナの関係に似ている。ところでタガイの飼育はタナゴの飼育よりもはるかに難しい。タガイは姿に似合わずきれい好きで水質や水温に敏感な上、植物プランクトンをよく食べるため最適な飼育条件が掴めないのだ。ビオのタガイは3つの池で逃げないように箱に入れ背番号を付けて飼育している。定期的に生育具合を確認するのだがなぜか池環境によって差が出ている。もっと言えば同じ西池でも10m近く離れるだけで生育が遅れ、死んだ貝も出ている。この違いは底の土壌の差ではないかと言われているがどうも合点がゆかない。物の本によればプランクトン不足も考えられるらしい。また、タガイの生育環境を整えるためには、タガイを食うザリガニを駆除する必要がある。モンドリを使って駆除しているがこいつが相当の難敵なのだ。

最後にタガイの繁殖について触れておきたい。雄の貝が水中に精子を放出し雌が体内に取り込んで受精し、母貝のえらで成長しやがて孵化し水中に放出される。水中を漂った幼生はヨシノボリやタナゴなどの髭やヒレに付着し、そこに寄生して栄養分を得て成長し、一定の大きさになると寄生から離れて稚貝として生きてゆきます。自然の営みの不思議さを感じますね。



パトロールグループ

がんばれ! さくら山

小島 武雄

さくら山は、昨年12月に守口さんから計画提案があり、協議の上みんなで整備に取りかかりました。2017年の皆伐地に植えられた桜の苗



7年前の銘板

木は7年を経過して、大きく育っています。ただ、コロナ禍を経過し、手の入らないままに笹藪で覆われて残念な姿になっていました。

ここに植えられた15本、6種類の桜をみんなで楽しむ事ができるようにと、1月からの笹藪刈り取りに掛かりました。ぎっしり茂った笹藪を手鎌で刈り取り、立っているのも困難な斜



咲き始めた寒桜

面の手鋏による道作り、急な坂への階段作り、あまりの大変さに途中挫折するかと思いきや、みんなの頑張りはずごいもので、徐々に進んでいきます。丸太の階段、竹柵、安全ロープ手摺張りなど、3月末についに完成しました。中旬からは、寒緋桜(カンヒサクラ)が濃いピンク蕾を膨らませ、次に頂上の富士桜(フジザクラ)がチラホラと咲きはじめ、道作りの応援をして



開花前の大島桜 (7年前の銘板)

くれました。ただし、植樹した桜は天の川、妹背、御車返し、大島桜、どれがどれなのか? 花が咲くまで

わかりません。開花を待って、銘板の取り付けを行う予定です。4月の自然教室時には、このがんばった! 観察路を歩きます。まだ少し桜の開花には、早いかもかもしれませんが、山の上から見える景色はまた違いますよ、皆様おたのしみに。